

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立白石高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症対策のため、教育活動が大きく制限された。その中で、オンライン会議システムを活用した授業やキャンパス間の会議等これまでにない取り組みを行うことで、学習活動やキャンパス間の連携など新たな取り組みの可能性が広がった。</li> <li>再編統合後の新しい学校づくりの第2ステージとして、ランドデザインの策定、カリキュラムや校務分掌の見直しを積極的に行っていききたい。</li> <li>学校の教育活動の展開において、コミュニティースクール構想やGiGAスクール構想を積極的に取り入れ、時代の要請に見合う生徒の育成に努めていききたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>夢を育み、夢の実現に邁進する学校</li> <li>知・徳・体の調和のとれた、健全な人格の形成を目指す学校</li> <li>地域に愛され、信頼される学校</li> <li>グローバル化に対応できる力を養成する学校</li> </ol>
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>一体感の醸成を加速する校務分掌のチームワークづくり&lt;校舎制による円滑な学校運営&gt;</li> <li>「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」最終年度として取組促進と総括、コミュニティースクール設置への準備&lt;魅力と活力ある学校づくり&gt;</li> <li>新学習指導要領の実施に向けて白石高校の特色化・魅力化を推進するカリキュラムの最終検討</li> <li>「総合的な探求」の更なる充実を図り、探求学習の中で得た学びや経験を一人ひとりのキャリアに結びつける組織的な流れを構築</li> </ol>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の進路希望に応じたきめ細やかな進路指導によりキャリア発達を促し、進路実現を達成させる</li> <li>○主体的に考え、行動する力を育成するため、また、学力向上のための授業改善に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育アンケートにおいて、「進路について考えることができた」、「ある程度できた」と回答した生徒の割合97%以上</li> <li>○授業について、「満足している」と回答した生徒の割合90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種進路行事や学期ごとのキャリアパスポート記入を通して、生徒のキャリア発達を促す。</li> <li>・ICT機器の効果的な活用方法等、魅力ある授業づくりについて、各教科で研修を行う。</li> </ul>
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</li> </ul>	○本校の道徳教育及び人権・同和教育の全体計画に基づき授業を行ったと回答した教員95%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権・同和教育講演会及びLHRを実施し、人権意識の向上を図り、差別を許さない態度を醸成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の段階に応じてテーマを設定し、人権・同和教育への意識付けができた。</li> <li>・異文化理解・多文化共生をテーマに講演を行い、国際的視点の考え方を理解できた。</li> </ul>	B	・話を聴くだけではなく、実際に外国人や障害者とスポーツなどで交流できればよいと考える。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いじめの早期発見、早期対応体制の充実</li> </ul>	○いじめ防止(未然防止・早期発見・即時対応)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートを年3回実施し、職員研修も実施する。また、学年・生徒指導・教育相談等が連携を取り対応する。</li> <li>・生徒会いじめゼロ啓発活動を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同で対策委員会を開いて生徒の実態把握を行い、その後の対応が確認できた。</li> <li>・学年、教育相談部、スクールカウンセラー等との連携を図り、丁寧に対応できた。</li> </ul>	A	・普通科キャンパス3年生について、入学から1人も欠けることなく卒業したのは大変素晴らしい。多様性を認めあう学校風土が育っていると感じる。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎郷土愛を醸成するための教育活動</li> </ul>	◎佐賀県や地域に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じると回答した生徒85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間合計4時間の講演及びワークシートを利用しての調べ学習を行うことにより、佐賀についてより深く学び、郷土に対する関心と郷土愛を喚起する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寸劇鑑賞や動画視聴により、生徒が興味をもって学習できた。(音)</li> <li>・本校職員および外部講師による講演を行い、大半の生徒が「佐賀」に肯定的回答。(音)</li> </ul>	A	・生徒たち自身が、郷土の文化や歴史について主体的に学べる環境整備をお願いします。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」</li> </ul>	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上 ○朝食を摂って登校する生徒90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食と健康について定期的に保健だよりの発行を行う。</li> <li>・アンケートによる意識調査を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を摂らず、保健室へ入室する生徒に対し、朝食の重要性を個別に指導した。</li> <li>・食料問題について学習し、「フードロス」の解決について考えさせた。</li> </ul>	B	・良好な睡眠と朝食は健康の基本。引き続き粘り強い指導をお願いします。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「安全に関する資質・能力の育成」</li> </ul>	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○防災について、高い意識を持っていると回答した生徒90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風水害時の保護者の迎えの手順を文書で作成し周知する。</li> <li>・防災避難訓練を消防署立ち合いのもと実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元消防署と防災避難訓練を実施(地震・火災)し、緊急時の避難・対応を確認した。</li> <li>・訓練時に、日頃から防災意識を高めて生活するよう全校生徒へ指導した。</li> </ul>	A	・身近な災害で今は意識が高いが、災害の記憶は風化するという前提で指導をお願いします。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心身ともに健康で、文武両道の充実した生活環境をつくる</li> </ul>	○本校の「部活動の活動方針」に基づき活動ができたと回答した教員85%以上 ○部活動加入率85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の時間の有効活用について、HR等で理解を図る。</li> <li>・各学年の部活内における立場を自覚させ、学校の活性化につなげる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動には活発に取り組んではいるが、完全下校を守ろうとする意識づけが必要。</li> <li>・部活動加入率を今後増やしていくために、スクールバスのキャンパス間の運行便数を増やすことや、商業Cで活動する部活動を増やすことなどについて検討していきたい。</li> </ul>	B	・大会での上位成績はもちろん重要であるが、生涯を通じてスポーツや文化に触れるための基礎作りも重要である。 ・活動の障壁になっているハード面の改善を望みたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</li> </ul>	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出退勤管理システムを有効に活用し、長時間勤務の職員に対し、指導・助言を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出退勤システムを利用することで勤務状況の自己管理にも役立ち、平均時間外在校時間は減少した。校務の整理や平準化、個別の声掛けを行ったが、一部の長時間勤務職員の改善には十分至っていない。</li> </ul>	B	・先生方が元気でなければ、生徒も元気にならないと思う。今後も先生方の健康管理をお願いします。 ・長時間勤務の改善は難しい面もあると思うが、できることから取り組んで欲しい。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職場の相談体制を整え、働きやすい職場環境を構築する</li> </ul>	○働きやすい職場環境であると回答した教員90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内のハラスメント相談体制を整え、相談があった場合は迅速に対応する。また、第三者相談機関を職員に周知。</li> <li>・職員研修を年間3回実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメント相談体制については、校内外に周知することができた。また、毎月「ゼロの日」を通して服務指導を行った。管理職によるハラスメント研修を行った。(1学期4月、2学期9月、3学期3月)</li> </ul>	A	・コロナ禍で、職員の方々も様々なストレスがあると思いますので、きめ細やかなケアをお願いします。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○校舎制による円滑な学校運営	○キャンパス間の連携・協力体制をつくり、合同行事に積極的に取り組む	○合同行事の開催年間10回以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動を中心に、合同行事を企画、実施する。</li> <li>・合同の分掌会議・運営委員会・職員会議を定期的に開催する。</li> </ul>
○魅力と活力ある学校づくり	○地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト(最終年度)の成果を次年度以降につなげていく	○普通科・商業科ともに中学生の志願倍率1.0倍以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元地域、小中学校、大学・専門学校、企業との接点を多く作り、それぞれの特色を生かした企画を実施する。</li> <li>・各プロジェクトの実施概要を「学校HP」や「白高だより」等や他メディアを使用し、情報発信を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトは多種多様な形で地域との接点を持った。</li> <li>・生徒の取り組みを学校HPやYouTube配信などを利用し、本校の魅力を外部にPRした。</li> <li>・入試の志願者数は減少したが、多様な取組ができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携は生徒の主体性・探究心を育む場に昇華していくことを期待している。</li> <li>・志願者減はJRダイヤ改正への不安やキャンパスの小規模化など複合的な要因があると思うが、生徒の学校生活の充実を第一に考えて対策を講じていただければと思います。</li> </ul>
○新カリキュラムの構築	○新学習指導要領に対応した新カリキュラムを構築し、「総合的な探求」活動を充実させる	○令和4年度入学生用の教育課程表を7月中旬までに完成させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム委員会を複数回開催し、全職員で作成するという機運を醸成する。また、総合的な探求の時間の取り扱いについて、検討を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度、教育課程実施に向けて共通校時の検討や行事の調整を行っている。</li> <li>・新教育課程について評価規準、評価基準、シラバスを策定することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「両キャンパスの生徒がいきいきと充実した学校生活を送ること」を第一に考えて教育課程を編成し、魅力あふれる学校になって欲しい。</li> </ul>

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力の向上」について、本年度は普通科3年生が国立大学に18名の合格者を出し、商業科3年生も進路達成100%であった。次年度は両キャンパスともに基礎・基本の定着を図りながら一層の進路実現を目指すとともに、キャリア教育の推進により自ら意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。</li> <li>・コロナ禍で各種行事が計画通りに実施できなかった面もあるが、両キャンパスが連携してできる範囲で合同会議や合同行事を開催し、職員や生徒の「1つの学校」という意識が高まった。</li> <li>・3年間の「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」で培ったノウハウを活かし、次年度はSAGAコラボレーションスクールの重点校として、地域協働のさらなる展開とキャンパス制の特徴を活かした小中連携を展開する。</li> </ul>
------------------------	---